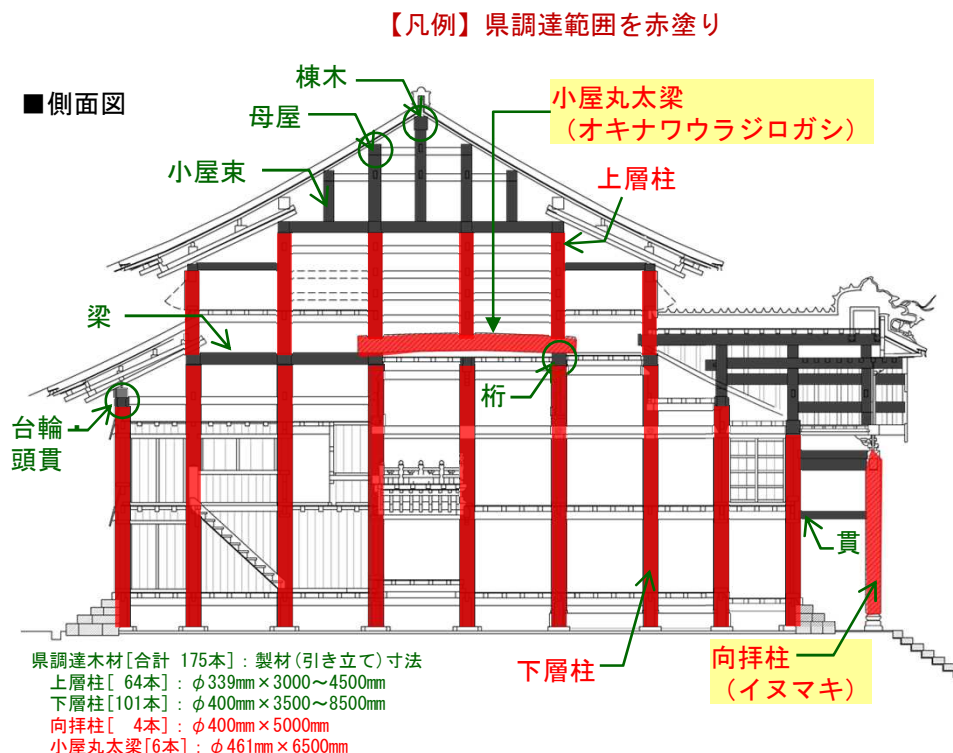


(1) 大径材の樹種変更について



【令和2年9月30日】

首里城正殿復元工事に用いる大径材のうち、柱材（国産ヒノキ）と小屋丸太梁材（国産ヒノキ）について、寄附金を充当して調達することで、沖縄総合事務局と沖縄県で協議が整った。

→協議が整った沖縄県調達の大径材のうち向拝柱と小屋丸太梁については、国産ヒノキからイヌマキとオキナワウラジロガシへの樹種変更として、協議を予定している。

(2) 赤瓦調達について

沖縄県と沖縄総合事務局で連携して、原土の材料調査とあわせて、シャモットを含めた配合の検討および焼成試験に取り組んでいるところである。

沖縄県では、「沖縄県首里城復興基金の活用に関する方針」（令和2年7月30日）に基づき、次年度からの正殿に用いる赤瓦調達に関する事業への寄附金の充当に向けて、今後、沖縄総合事務局と協議を予定している。